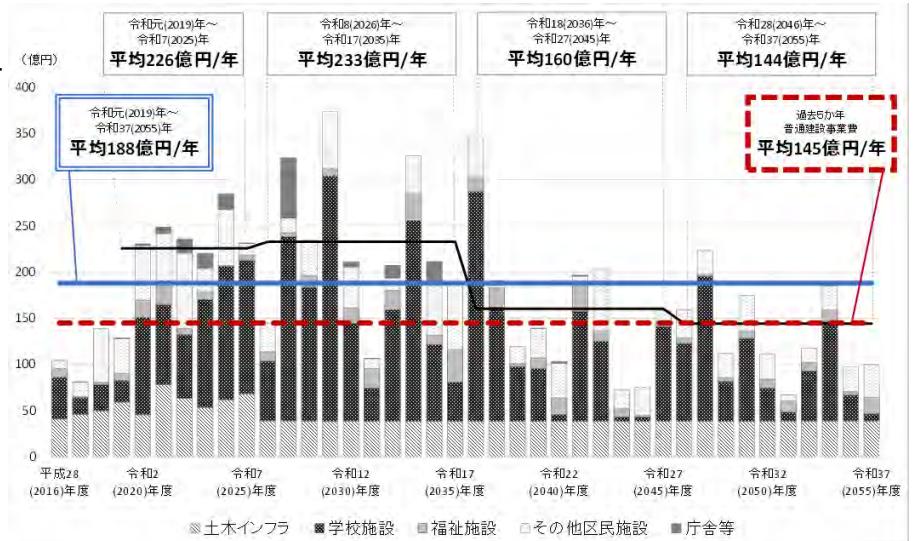


板橋区の公共施設マネジメントの取り組みについて コロナ禍における個別施設計画のあり方

板橋区役所
教育施設担当課長
教育委員会事務局副参事 兼務
千葉 亨二

1. 板橋区の現況と、取り組みの背景

- 「公共施設等総合管理計画」及び「個別施設計画」を平成27年までに策定
- 将来的な人口減少
- 施設の老朽化（築30年以上が80%以上）
- 建設費の上昇（H25と比較して約1.4倍）
- 将来 L C C の予測から、総量抑制が不可避
L C C 算定：独自プログラムでの随時更新



2. 個別整備計画の策定

- 策定の目的
 - ①次世代への魅力ある公共施設の継承
 - ②安心・安全な公共施設づくり
- 区民、町会、施設利用者への説明会
- 集会、高齢、児童、学校の分科会による検討
- 施設整備のサイクル、基準、優先順位の考え方
- 予防保全、集約・複合化の推進



3. 計画策定後の取り組み

- 推進体制（プロジェクトマネジメントの実施）
- 維持改修経費の順位づけの効果
- 職員の意識啓発（F M 通信の発行）
- 広域連携（F M 連絡会議東京23区地域会）
- 策定後の具体的なプロジェクト（事例）
- 計画のローリング（「個別整備計画」の改定）
- 公共施設の配置検討（エリアマネジメント）

4. コロナ禍における個別施設計画のあり方

- コロナ禍で見えてきたこと（税収減、更なる支出、D X、公共施設の役割）
- 優先順位の考え方（事業の見直し、施設運営、避難所、要支援者）
- 選択と集中（予算の見直し、マネジメント、安心・安全）
- 今こそ見直しのタイミング（計画の見直し、ソフトとハード）
⇒そして、実行へ！



中央図書館の改築



区営住宅の再編整備